

# 障害者のスポーツ無実施層に関する調査研究

## 調査目的

スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、日本各地において障害者が健常者と同様にスポーツに親しめるようにするためには、各地域で抱える課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備を図ることが不可欠である。平成29年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」においても、障害者スポーツ振興のための体制や方策の充実を重点的に盛り込んでいる。

これまでに、障害者がスポーツに参加するに当たっての阻害要因や促進要因を障害種や程度別に把握した上で分析するなどの調査を実施することにより、特に若年層のスポーツ無実施層が増加傾向にあることが明らかとなっている。

このことから、本事業では障害者のスポーツ無実施層に対する、原因把握・分析及び解決に向けた施策案の提案等に向けた調査研究を実施することにより、障害者のスポーツ参加促進に資することを目的とする。

## 調査方法

本調査では、以下のヒアリング調査を実施した。

### ①団体等ヒアリング調査

障害福祉に関する団体(以下、「障害者団体」という。)並びに障害者が所属する障害者支援施設等、小・中・高等学校及び特別支援学校における、運動・スポーツの提供状況と、所属する障害者のスポーツ参加の現状についてヒアリング調査を実施し、分析を行う。

### ②個人ヒアリング調査

過去1年間に1回も運動・スポーツを実施していない障害者当事者(障害種・程度別、年代別)が、を実施しない理由と、スポーツを始めるに当たっての条件(環境及び心理的要因)等、障害者のスポーツ参加の阻害要因を障害種や程度別に把握・分析する。比較のため、スポーツ・運動を実施している者も対象に含む。

# ■団体等ヒアリング調査結果

## 障害者団体

### ■障害者のスポーツ実施について

- 何かスポーツをしようすると、全盲の場合は、スポーツセンター、障害者スポーツセンターで行うのがやっと。各区にはスポーツセンターがあるが、一緒にエスコートしてくれる人がいないとスポーツセンターを使うことは不可能。【視覚障害】
- 家庭で意識してやらない限り、日常的にスポーツをやる機会がない。知的障害の場合は支援が必要なので、行動範囲が狭まる。【知的障害】

### ■必要な支援・配慮等について

- 幼いころから障害があると、体幹ができていない。スポーツを知らない、やりたくてもどういものがあるか知らないということもある。【肢体不自由】
- 視覚的な情報保障が必要となる。陸上や水泳のスタートの合図である、スターターピストルやブザーの音は聞こえないため、光などで知らせるように設備整備が必要となる。【聴覚障害】

## 障害者支援施設

### ■障害者のスポーツ実施について

- 左右のバランス感覚が整わない、腹筋の力が弱くて背筋が伸びない、協調運動、なわとびなど学校体育でやるような種目が苦手なお子さんの場合は45分できる限り運動する。【放課後等デイサービス】
- ウォーキングは、基本的には希望者のみの参加としているが、自分の意志を伝えられない人や、歩行が自由にできない人は外に出る機会がどうしても少なくなってしまうので、そういう人も車椅子で外の空気を吸うなどはしている。【生活介護】

### ■必要な支援・配慮等について

- 様々な選択肢を用意することが大事。苦手な人に共通するのは、きついこと、苦しいこと。スポーツが苦手な人には、軽スポーツ、フライングディスクのような楽しみながら、ハードに動かなくてもやれる選択肢を用意し、スポーツは楽しいことをわかってもらう。【生活介護】
- 運動と工作など、活動を選択できるようにして、スポーツが嫌いな人は別の活動を行う。無理強いはいしない。【就労継続支援B型】

# ■団体等ヒアリング調査結果

## 特別支援学校

### ■障害者のスポーツ実施について

- ほとんどの生徒は体育が苦手化、嫌い。自分に出来ないという意識が刷り込まれている。やる前からあきらめたような様子を見せる。【**肢体不自由**】
- 小さいころから体を動かしたり遊具で遊ぶという経験が少ない子が多い。見えにくかったり危険だったりの子もいて技術面で難しいものもある。【**視覚障害**】

### ■必要な支援・配慮等について

- 声掛けとしては、とにかく体験、経験することが大事だという話をする。出来ないからではなく、やってみて自分に合うやり方を考えさせる。どんな形でも良いという雰囲気を作っている。【**肢体不自由**】
- スポーツが苦手な生徒は受動的になりがちであるため、どうすればこの課題に取り組めるのか、生徒個人に関わりを持って、スモールステップ的に目標達成していく。【**聴覚障害**】

## 公立学校

### ■障害者のスポーツ実施について

- 個別支援学級の児童は、日常に取り入れていかないと、とにかく体を動かさない傾向にある。ゲームや携帯ばかりに意識が行く。【**小学校**】
- 特別支援学級の生徒は、運動の上手下手は別にして、ダンスなどの身体を動かすことは基本楽しみにしている。しかし、内容が持久走になると休みがちになる生徒もいる。【**中学校**】

### ■必要な支援・配慮等について

- 児童それぞれの課題が異なるので、ゆっくり少しずつ嫌にならないように、体育に参加できる機会を増やすようにしている。【**小学校**】
- 発達障害の生徒には言語での指示がうまく通らないので、視覚に訴える簡単な指示を出すようにしている。それから運動の充実感と楽しさを得られるように、遊びの延長でスポーツに入っていける流れを作っている。【**高等学校**】

# ■個人ヒアリング調査

## 運動・スポーツに対する意識・経験

- 運動、スポーツをすることは好き。だが、日常の動きだけでも息苦しいため、現実的にはできない。【**肢体不自由**】
- 耳のことがあってチーム競技ができないので、個人で体を動かすこととして陸上をやっていた。【**聴覚障害**】
- 運動、スポーツをすることは好きではない。基本的に怠け者で、じっとパソコンを見たり本を読むのが好きなため、昔から体を動かさそうという気にならない。【**内部障害**】
- 運動、スポーツをすることが好き。何でもやりたがるが、普通の子と一緒に集団スポーツをするのは難しい。【**知的障害**】
- 運動、スポーツをすることは好きではない。スポーツをやってもうまくできないので嫌になってしまった。【**発達障害**】
- 運動は嫌い。小学生の頃は絵を描くなどの一人遊びが好きだった。運動はもともとしないし、興味なかった。【**発達障害**】
- スポーツを見ることに興味はない。やることに全く興味がない。運動・スポーツにはもともと興味がない。【**精神障害**】

## 障壁・課題

- 運動できない一番の原因は手足を自由に動かすことができないことにある。【**肢体不自由**】
- 一番の障壁は時間がないこと。【**肢体不自由**】
- スポーツクラブに通いたい気持ちはあるが、教えてくれることが聞こえずに実践できないと、教えているほうも腹が立つだろうと考えるため、スポーツクラブは腰が引けてしまう。【**聴覚障害**】
- 障害が外見から分からないので、発作で倒れた際に周囲からのサポートがあるか不安で激しいスポーツはできない。【**内部障害**】
- 手伝ってくれる人がいない、スポーツ施設の費用、安全面、スポーツ施設が近くにないことが障壁。【**知的障害**】
- 人と会いたくないのでジムなどの施設の利用は出来ない。【**知的障害**】
- 続けるモチベーションがないことと時間がないこと。【**発達障害**】
- 皆と一緒に何かをするのも難しい。一つのことにしか注意が払えない特性が一番の障壁になっている。【**発達障害**】
- 人が苦手なので、ジムなどには行けない。スタッフに理解があるという前提があっても行けない。【**精神障害**】

# ■個人ヒアリング調査

## 必要な配慮・支援

- 障壁を取り除くには体を動かすことに対しての痛みがなくなること。右も健常者の時ように動かそうとすれば動くが、自分の想像していない変な動きをするから怖さもある。**【肢体不自由】**
- 送迎サービスが欲しい。今の自分には移動が非常にネックになっている。家族に運転を頼むのは嫌。**【肢体不自由】**
- シニア世代専用のそんなに難しくない簡単なミニスポーツクラブのような公共の施設を用意してくれれば、週1~2回は通う気にはなる。シニア世代は普通の人でも年を取って耳が聞こえなくなる人も結構おり、教えるほうもそこは気を遣って大きな声で話してくれるのではないかな。そのような施設があれば行ってみたい。**【聴覚障害】**
- 近くに誰が行っても温かく迎えてくれるようなスポーツ施設があれば行ってみたいと思う。**【内部障害】**
- 手伝いしてくれる人がいて、スポーツ施設が無料、もしくは格安で利用できたらよい。安全にケガをしないように見守ってくれる人がおり、一緒に運動もしてくれとうれしい。**【知的障害】**
- 障害者に理解のある人の中で運動ができる場所があれば参加する機会は増えると思う。送迎があれば子ども一人でも行けるので、今よりも運動ができると思う。**【知的障害】**
- 運動量や歩数に応じて特典がもらえるとモチベーションになる。ウエイトを付けて歩くなど日常の動きをトレーニングにできたらもっと効率よくできると思う。**【発達障害】**
- 他人と競ったり比べられたりは苦手なので、そういうことを意識せずに出来るスポーツなら続けていけそうだと思う。**【発達障害】**
- 人がいないところならできるかもしれないが運動は苦手意識があるため、運動をプログラムしてくれるパーソナルジムを行政でやってくれる安いものがあるとよい。**【精神障害】**
- 運動の効果がわかることはやるきっかけになると思う。こう動かしたらこういう良いことがあるなどを子どもでもわかるようにしてくれると良い。**【精神障害】**

